

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

H25 年度日本水産学会増殖懇話会 第 1 回講演会 カワハギ類養殖の現状と展望



9 月 19 日～22 日 (日) にかけて、津市の三重大学で開催された平成 25 年度日本水産学会において、「カワハギ類養殖の現状と展望」と題し、水産増殖懇話会第 1 回講演会が行われました。

千葉県立中央博物館分館「海の博物館」・川瀬裕司氏や三重県水産研究所尾鷲水産研究室・土橋靖史氏他 4 名が、カワハギ類の繁殖生態、種苗生産技術開発、養殖技術開発の現状や自発撰餌リズム・遊泳リズムなどの発表を行いました。

近年、魚価の低迷や飼料・燃油の高騰などにより、魚類養殖が厳しい経営状況に置かれている中で、カワハギやウマヅラハギなどのカワハギ類は、出荷価格が安定していること、人工種苗量産化体制が確立しつつあることなどから、まだまだ課題は残るものの、養殖振興魚種として注目されています。



H25 年度日本水産学会中部支部大会 ワークショップ 水産系高等学校と大学の連携による、水産に貢献する人材のキャリアパス形成を目指して



9 月 21 日 (土)、水産系の高校と大学が連携を深め、水産業の発展に繋がる人材育成に資するため、日本水産学会中部支部と三重大学大学院生物資源学研究所の共催により標記のワークショップが開催されました。

水産系高校の就職、進学に関する発表では、県立水産高校 (志摩市) をはじめ愛知、静岡、京都の 4 校の教諭が登壇し、卒業生が必ずしも水産業に就職しておらず、また入学生も減少していることを報告し、大学と連携して人材育成に当たる必要性を訴えました。

一方、三重大学の教員からも、水産系を専攻しながら、水産業に就職する学部生は 3 割にとどまり、大半が学んだ専門知識を生かしていない現状が報告されました。

その後、4 校の生徒、三重大学生とその OB らによりグループディスカッションが行われ、「引き続き大学で生物分野の研究をしたい」と話す高校生に対し、

大学生らは「英語は絶対に必要」などの助言が寄せられました。

続いて、ポスターセッションが行われ、参加者の投票により、三重水産高校の志摩地方の海藻の研究「ミル色の研究」が最優秀賞に選ばれました。

最後にグループディスカッションの発表を踏まえて、高校、大学、企業、行政などから 9 名がパネラーとなり、社会が水産系高校、大学に求めるキャリア形成について議論を行いました。最後に、「目的意識と向上心を持ち、水産に対する高いスキルを有する学生を受け入れ、育成し、地元三重に人材を根付かせるための社会連携を作っていくこと」などを討論のまとめとしました。

H25 年度 第四管区海上保安本部 総合洋上訓練が実施されました



9 月 14 日（土）、15 日（日）の 2 日間、伊勢湾内鈴鹿沖合において、平成 25 年度第四管区海上保安本部総合洋上訓練が実施されました。

三重県水難救済会からは鈴鹿市漁協

の 4 隻 8 名、河芸町漁協の 1 隻 2 名の計 5 隻 10 名が参加し、救助訓練に 1 隻、海上パレードには残りの 4 隻が参加しました。

訓練に参加いただきました皆様、お疲れ様でした。また、組合員の皆様には、漁業操業中のライフジャケット着用、見張りの徹底、船舶間のコミュニケーションの促進を今後とも宜しくお願い致します。

熊野漁協が「鬼ヶ城」東口に 水産物直売所をオープン！



9 月 23 日（月）、熊野漁協が世界遺産の大岩壁・鬼ヶ城（熊野市木本町）の東口に水産物直売所をオープンしました。

直売所は木造平屋建ての約 35 m²で、熊野漁協本所のある遊木漁港で朝に水揚げされた旬の鮮魚のほか干物、海藻などの加工品も販売し、施設内では、養殖マグロの餌やりなど漁業体験の情報も発信します。営業時間は午前 10 時から午後 2 時 30 分で、年中無休。

10 月 14 日（月）の午前 11 時から、マグロの解体と即売を行い、開店を PR します。

※お問合せ先は「熊野漁協水産物直売所
TEL 080-2657-9567」

【主な行事予定】

○27 日 お魚料理コンクール（津）

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。